

京都市統合データベースについて

京都大学大学院医学研究科 予防医療学 特定講師

島本 大也

本発表に際し、開示すべきCOI関係にある企業等として、
(株)ヘルステック研究所があります。
自身は、同社と京都大学との共同研究費によって雇用されています。

KYOTO UNIVERSITY

京都大学



**本日は、京都市と我々が共同で実施している、
京都市統合データベースを用いた研究・取り組みについて、
ご紹介します。**

(おそらく)皆さんの研究のイメージ



Japan Data >

ノーベル生理学・医学賞に阪大の坂口志文氏ら：免疫反応抑える制御性T細胞発見の功績

nippon.com HPより



触発ギャラリー 巻頭特集 学生・卒業生紹介 授業・研究紹介 施設・職

ホーム > 紅菫 > 巻頭特集

本庶 佑特別教授 ノーベル生理学・医学賞 受賞特別鼎談

「探究心」という強烈なエンジンこそが、新たな道を拓く

日時：2018年12月27日（木） 場所：京都大学基礎医学記念講堂 階段教室

本庶 佑特別教授 ノーベル生理学・医学賞 受賞特別鼎談

「探究心」という強烈なエンジンこそが、新たな道を拓く

本庶 佑
高等研究院副院長・特別教授（中央）

山中伸弥
iPS細胞研究所所長・教授（右）

司会：湊 長博
プロボスト 研究担当理事・副学長（左）

京都大学広報誌 紅菫 HPより



Kyoto University School of Public Health

京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻

[アクセス](#) [リンク](#) [お問い合わせ](#) [English](#)

キーワード検索



[社会健康医学とは](#)

[分野・コース](#)

[入試情報・入学案内](#)

[シラバス・単位取得](#)

[キャンパスライフ](#)

京都大学医学研究科社会健康医学系専攻の特徴

- 1 我が国初の公衆衛生大学院(2000年創立)
- 2 最高度に充実したカリキュラムと研究指導
- 3 臨床研究・統計家養成の拠点
- 4 ダブルディグリーなど、国際的な教育・研究体制の充実

**ヒトのデータを集約して、統計的・医学的に解釈していく、
『臨床研究』を専門に実施しています**

KYOTO UNIVERSITY

スマホとライトグラスで睡眠改善

夜型生活の方の不眠に対するプログラムを検証。

スマートフォンアプリを用いて毎日の睡眠状況を記録し、少しずつ睡眠時間を正していく睡眠行動療法と、LEDライトグラスを用いた光療法（LT）を併用する介入プログラム「デジタルBBTI with LT」を開発し、4週間後の不眠の改善が示唆された。

Journal of Sleep Research, 34, 2, e14361.

京都大学HPより 改変引用





週に1日または2日だけでも8,000歩/日の歩数を達成することは健康に良い

1日に8,000歩以上歩いた日数ごとに、死亡リスクをそれぞれ検討。8,000歩以上歩く日数が多い人ほど、全死亡と心血管疾患の死亡リスクが低いことが示されました。死亡リスク低下率は初めの数日で大きく、週に1日または2日でも8,000歩以上歩いている人は、週に3日以上定期的に歩行している人とほぼ同等の死亡リスク減少を認めました。

JAMA Network Open 2023

京都大学HPより 改変引用

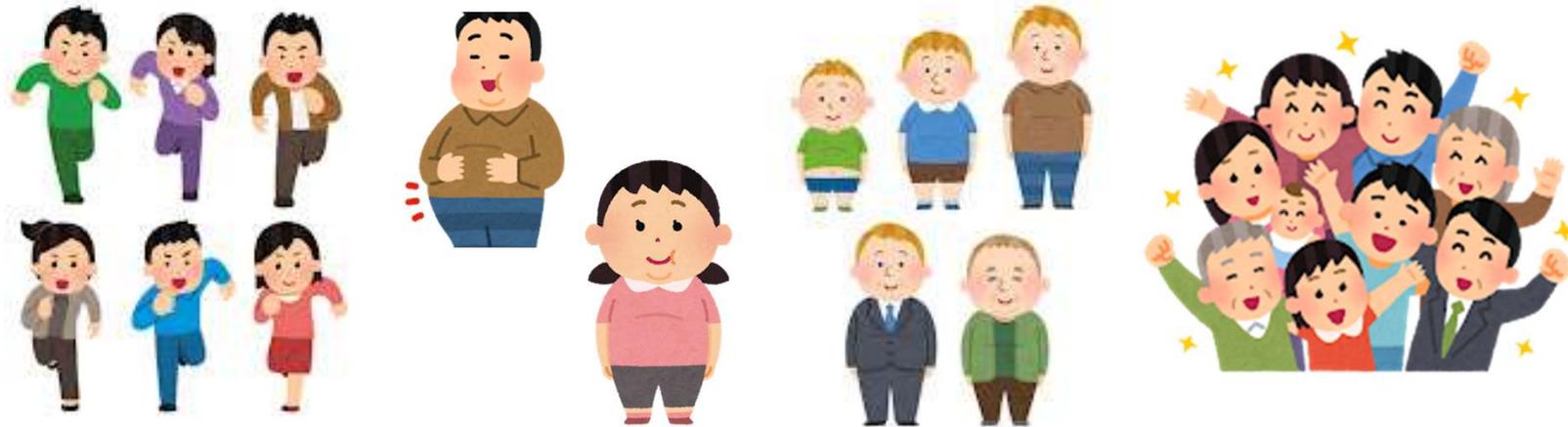
ふつうの暮らしが未来の医療をつくる 京都市統合データベース

- 皆さんが病院に行って受けた治療や処方された薬、健康診断・健康診査、がん検診の結果などが、
『各データが誰のものかは分からない形で』集約したデータベース
- 対象は、国民健康保険の方、後期高齢者医療の方



参加型の臨床研究の限界

- 研究に協力してくれる人は、もともと健康意識が高い。
しかし、現実の人々の健康意識や背景は多様で幅広い。
- 実社会で医療が効いているのか調べるためには、
そうした様々な背景の人の情報を網羅的に取得する必要がある。



京都市統合データベースの特徴

- **全体性**：保険利用者の、健診・検診・診療のデータが一体
- **長期性**：数年以上の単位で追える
- **匿名性**：どのデータが誰のものか、研究者は分からない

実社会での医療の実態や、その効果を見ていくのに最適

京都市統合データベース：研究の枠組み

京都市＊京都大学と様々な企業が協力し、データベースの作成や研究解析を実施



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

ヘルステック 研究所
HealthTech.Lab

- ・ 大腿骨頸部骨折
- ・ 大腿骨近位部骨折



がん（肺がん、胆道がん、血液がん、膀胱がん）の治療、予防に関する研究



くすりのあしたを考える。

東和薬品

糖尿病の治療実態に関する研究
PHRを用いた生活習慣の改善

第一生命

PHRを用いた口腔運動の実施
75歳お口の健診事業の解析



東京海上日動

外来心臓リハビリテーションの実施状況
PHRを活用した心臓リハビリの促進

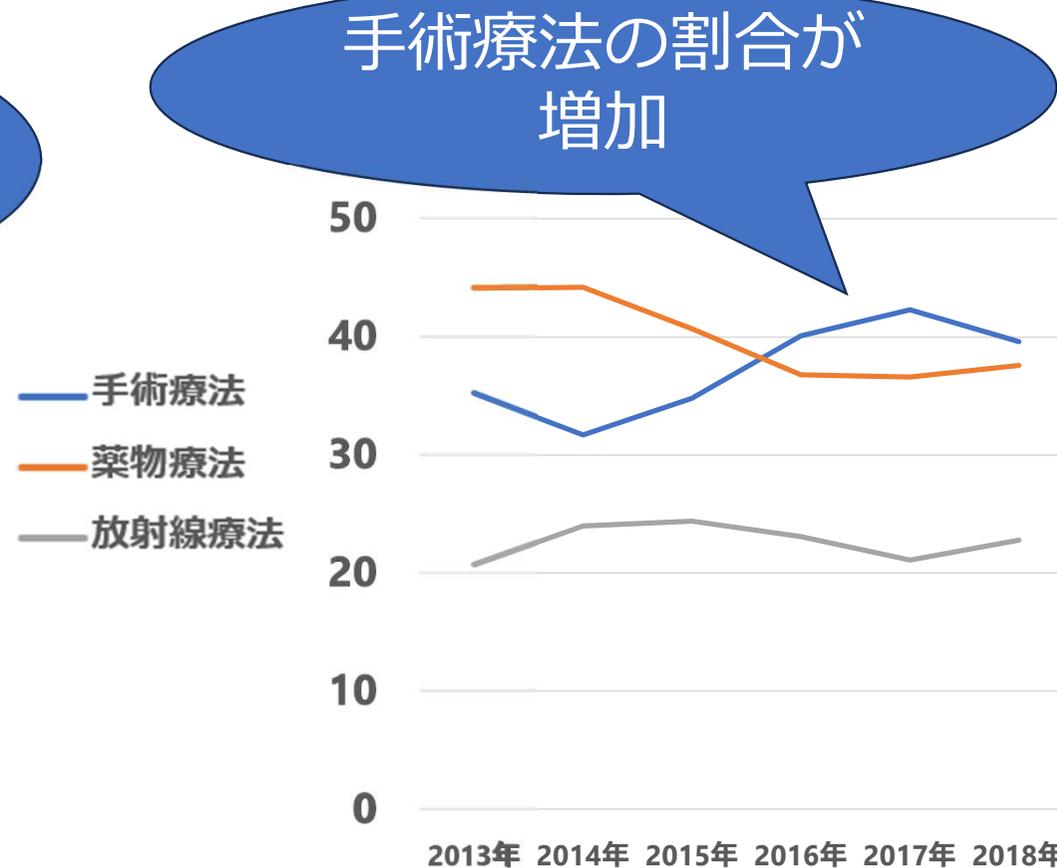
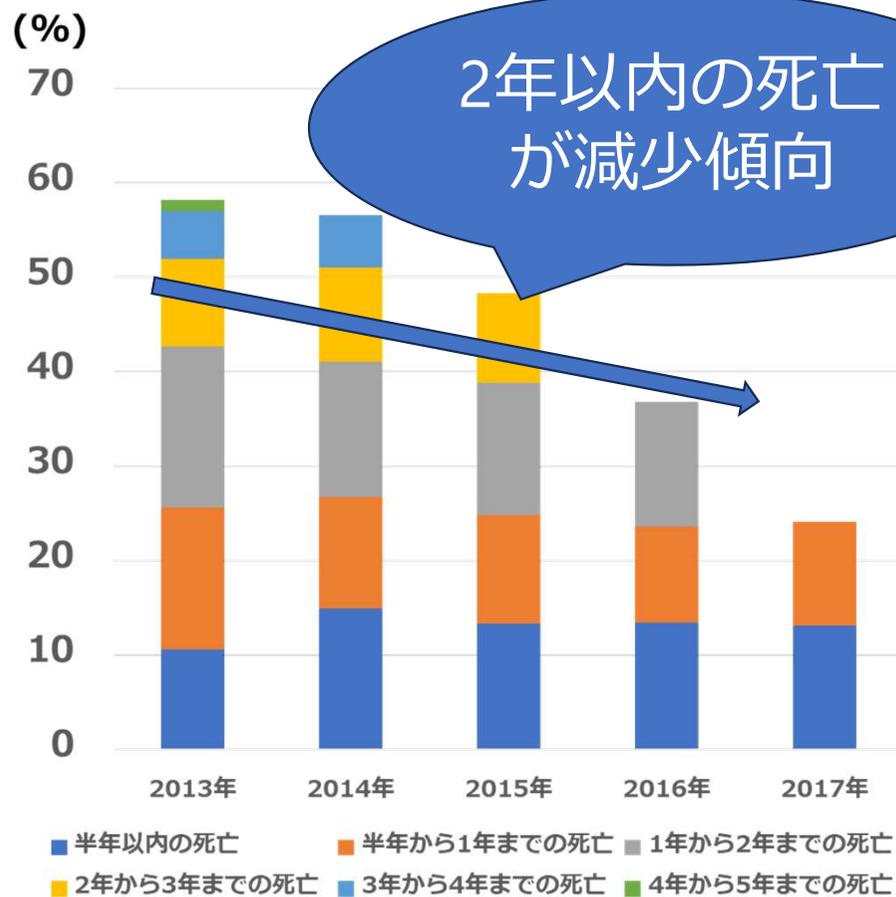
研究テーマは京都市と相談しながら決定し市民のみなさんに還元できるものを選定

京都市統合データベース：肺がんに関する研究

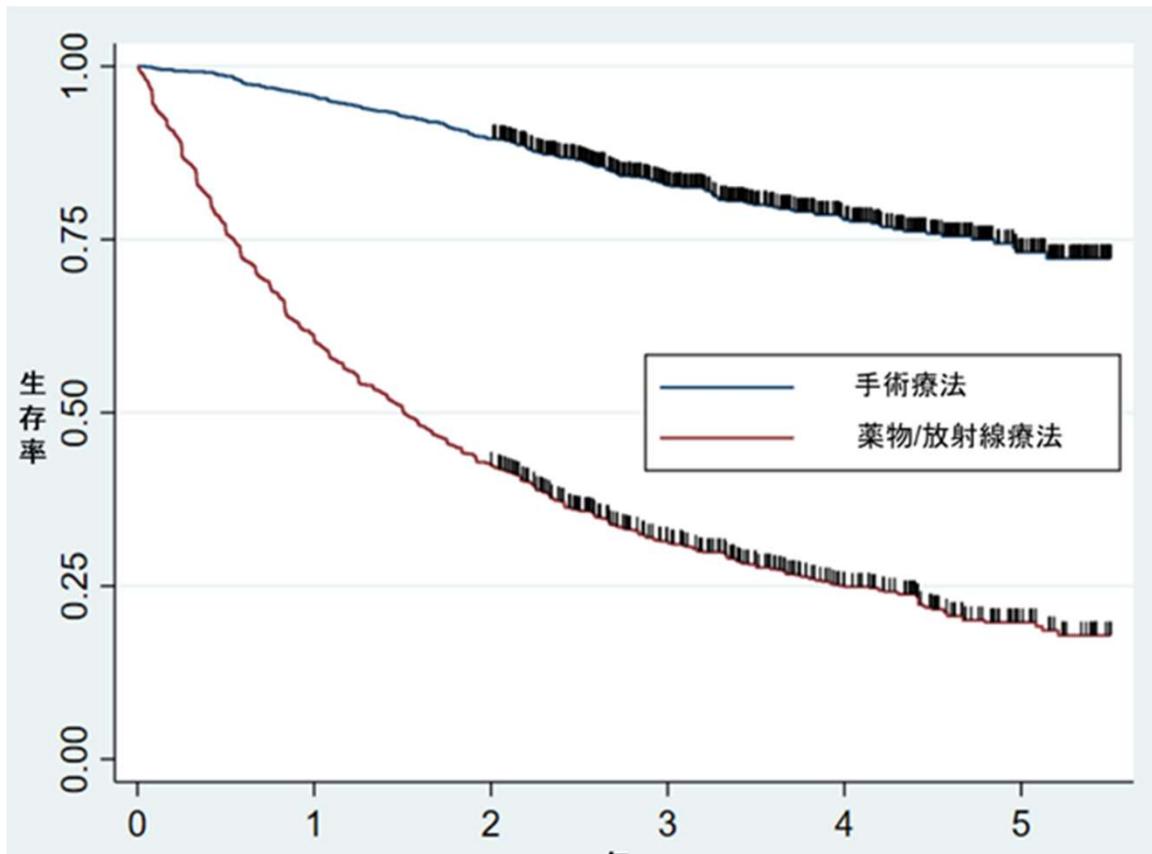


肺がんは、喫煙率が下がってきた現在でも死亡数が最も多い“がん”です。
肺がんをテーマとした研究は、京都市統合データベース最初の事業として、Astra Zeneca(株)と開始し、テーマを更新しながら現在も続く研究。
今日は京都市民の皆さんのデータを使って得られた知見をご紹介します。

肺がんとなった方の生存割合の改善と初期治療が変化



手術療法がやはり効果が高い

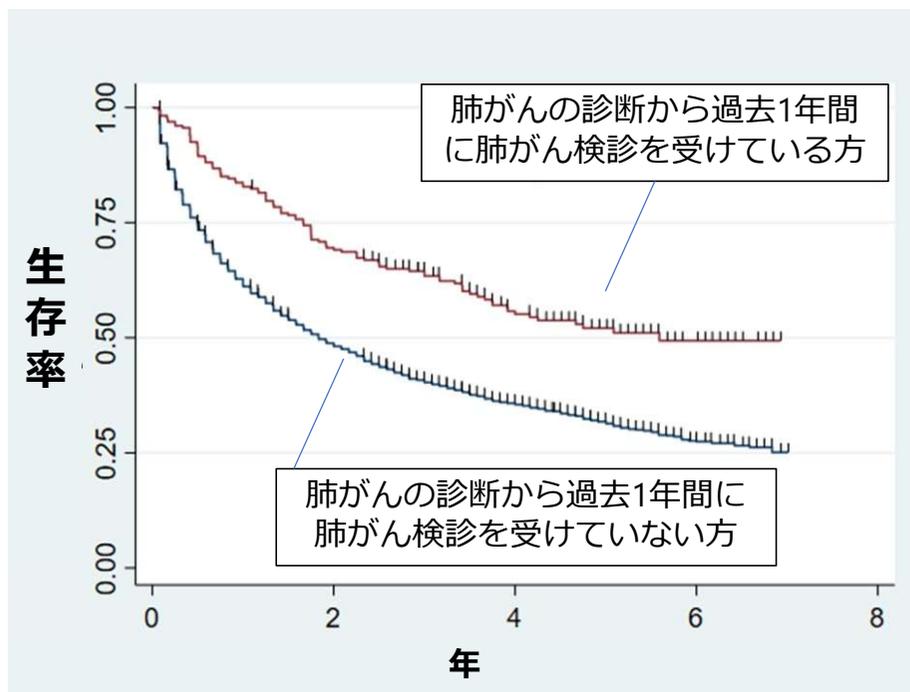


早期発見により手術療法を受けられた方の予後が良い。

次は、早期発見のための肺がん検診を調査

肺がん検診の実態

- 2013年から2018年に肺がんと診断された65歳以上の方 4,473名を調査



- 肺がんの診断から過去1年間に肺がん検診を受けた方は231名 (5.2%)
 - 受けていない方よりも、生存期間が長い
 - 早期発見の割合が高い
 - 手術を受けている割合が高い
 - 年齢が若く、元気な人が多い

- 肺がん検診の受診者がまだ少ない
- 肺がん検診の効果を正しく検討するには、より精緻な研究が必要

現在実施中の研究

- 肺がん検診の効果検証は、2000年前後に実施された研究が主
- 統合データベースを使って、その検証を行う研究を現在実施しています。



その他の取り組み

- 外来心臓リハビリテーションの受診率の低さが改めて確認され、スマホアプリを用いた介入でその改善策を検証
- 口腔機能のテストとその後の介護度の悪化の関連が示唆され、口腔運動を継続するプログラムを開発して効果検証

など



京都市統合データベース



- 京都市統合データベースで、実社会の医療の実態を調査
- 明らかになった課題を基に、更なる調査、システムの改善、新しい取り組みを行っていく

Take Home Message まとめ

- **皆さんの医療や健診等にかかるデータが集約されているのが、京都市統合データベース**
- **医療の実態やその効果を検証できる特徴的なもの**
- **これからも、産官学連携で京都市統合データベースを解析し、医療の改善につなげていきます**